

1 単元名 「おばけやしきをつくろう」 内容 (4)(6)

2 単元によせる授業者の思い

課題に対して比較的真面目に取り組む子が多い。その反面、発問に対して自分の意見が間違っていると、めそめそと泣き出してしまいう子が多いことが気になっていた。また、考えを持っていても間違ったらどうしようと思ってしまうのか、意見を言う子が決まってしまう傾向もあるように思えた。学校というところを、間違えてはならないところ、きちんとなければならないところととらえているように思える。どちらかという頭でっかちになり、自分を発揮することができないように思える。そのような子ども達に、学校での学習は決まりきったものではなく、何をやっても学びが成立すれば学習なのだということを理解してほしいと願っている。そこで、彼らが考えている学校の学習とは距離を置くような学習をしたいと思い「おばけやしきをつくろう」と単元を考えた。この単元では、子ども達が考えているような学校の学習のイメージをお化けに変身させる活動や怖さを引き出すためにお化け屋敷を作るという活動を通して少しでも払拭することが期待できる。また、作ったお化け屋敷に年長さんや兄弟学級の6年生を招待するという活動も生まれやすく、自分たちで作りだした楽しさを他に広げようと働きかけることを通して、自己の発揮や自信にもつながることが期待できると考えた。

3 単元展開

おばけやしきをつくろう (19時間)			
目標・・・お化けに変身し、年長さんや6年生(兄弟学級)を招待するためにお化け屋敷を作ることを校長先生に許可してもらったり、怖くするためのお化け屋敷にするにはどのようにしたら良いかなど考えたり工夫したりすることを通して、楽しく遊ぶことができるようにする。			
活動の姿や気づき ○数字は時数			
お化け屋敷を作って年長さんや6年生を招待しよう①	こわくするにはどうしたらいいんだろう 校長先生に頼んで部屋を借りよう①	年長さんや6年生を招待状を作ろう①	みんながお化けになったら、入場させる人は誰がやるの ①
お化けに変身しよう③	おばけやしきをつくろう⑧	年長さんも来るんだからお化け屋敷のルールを作ろう①	お化けと入場させる人を交代でやろう
全然怖くないよ	段ボールを使って隠れるところをつくろう	おどかさず時に、物を投げない。	お化け屋敷で楽しもう全校を招待しよう③

<p>評価のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身についていくすべての力を学力ととらえ、発見的にとらえる。 ○言葉になるものだけでなく、無意識のうちの身体表現にも着目する。 ○その子のすることや思い、人とのかかわりの変化に着目する。 ○自分で決めて自分で動き出し自分でやる姿を大事にする。 	<p>支援のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一緒に楽しみ共感する。 ○決めていくことを見守る。 ○取り組む姿で誘う。 ○繰り返す時と場を保証する。
--	---

4 本時のねらい（19間中 第8時）

「どこかに隠れておどかせば怖さが増すと考え、隠れ家を作り始めた子ども達が、年長さんが怖くなるようなおぼけの隠れ家にするにはどうしたらいいか考え、工夫したり試行錯誤したりすることを通して、お化けの怖さが増すような隠れ家を作ることができる。

5 指導上の留意点

- ・段ボールカッターやハサミを使うので、扱い方には十分注意させる。
- ・お化け屋敷の会場となる部屋は、お客さんが使う部屋なので大切にしよう伝える。

6 展開

- 本時の課題をつかむ。「年長さんがこわくなるようなおぼけのかくれがをつくろう。」（2分）
- 昨日まで作ってきた隠れ家を、紹介し合う時間を取る。（5分）
 - ・ぼくはこんなふうに隠れて、こんなふうに出ようと思うから、ここにのぞきあなをつくったよ。等の工夫しようとした点を発表し合うようにする。
- ペアごと分かれて、隠れ家づくりを行う。（33分）
 - ・担任は、それぞれの工夫している様子をとらえ、一緒に楽しんだり、工夫したところを自分でも体験してみたりしながら、その工夫のよさを共感し評価する。また、課題についても共感し、一緒に考えたり、他のグループを見るように勧めたりする。
- 今日の活動をふりかえる。（工夫して年長さんが怖いと言ってくれそうなところを発表しよう）（5分）
 - ・今日は、入口の所にひらひらを付けたら、ちょっと怖くなったような気がしてよかった。
 - ・棒が倒れるようになって、年長さんが怖いと言ってくれそうだ。
 - ・隠れ家が、動くようになって怖くなったような気がする。